

ひがしいず 議会だより

2020
1
月号

No.298



岡谷市「愛球会」を
迎えて熱戦を展開

誘客対策と災害復旧・・・2, 3
一般質問・・・5～9
委員会活動・・・10, 11
かがやくまちのひと・・・12



一般質問
YouTube

写真のチーム会長にインタビュー

12月
定例会

災害緊急対策

誘客対策と災害復旧

定例会
の概要

12月定例会が12月10日から11日までの2日間で開催されました。件、条例制定1件の合計13件を審議し、その結果すべて原案のとおり活発な議論が交わされました。

誘客対策

補正予算

●町観光協会補助金 1千88万円

台風15号・19号に関する直接・間接の被害や消費増税、他地域で展開される「ふっこう割」等のマイナス影響を減じ、観光振興を図るための誘客対策として、東伊豆町観光協会に対する補助金を増額しました。

※写真は
イメージです



インターネット上で宿泊料金が割引されるクーポンを発行

質 疑

Q笠井議員 補助金の内容は。

A観光商工課長 台風の影響により、推計7300人の宿泊キャンセルが発生した。その経済対策として、町観光協会が実施する楽天、じゃらんなどの割引クーポン発行のキャンペーン費用に対し補助を行う。

Q笠井議員 補助金による効果試算は。

A観光商工課長 割引クーポンを3000円とした場合、2月の入湯客数で3%程度の増加を見込んでいる。

Q楠山議員 当町の割引クーポンが国の補助対象とならない理由は。

A町長 国の補助対象となるのは、災害救助法の適用を受けた地域のみで、当町は対象とならない。

定例会日程

12月10日 一般質問
12月11日 一般質問・議案審議

で7千706万円

町長提出議案は災害緊急対策を含む補正予算6件、専決処分2件、条例改正4可決しました。また、一般質問には10議員が登壇し、災害対策や町政について

災害復旧（主な議案）

専決承認
第4号

●農林水産業施設災害復旧費 1千121万円

台風15号で被害を受けた片瀬わさび田2か所の水路等施設災害復旧に関する工事測量設計委託費



台風により被災した片瀬わさび田水路

専決承認
第5号

●防災対策費 407万円

台風19号の発生に伴う災害対策本部の設置に関する費用など

●災害復旧費 4千491万円

台風15・19号により被害を受けた農業用施設・林業用施設・漁港や河川・町道その他観光施設及び学校等の災害復旧工事費



大雨により路肩が崩壊した町道湯ヶ岡赤川線

補正予算

●災害復旧費 599万円

白田漁港の流木撤去や熱川海岸の堤防等の復旧工事費など

12月定例会で可決された議案

12月定例会で審議された13件の議案はすべて原案のとおり可決されました。

専決処分

○専決承認第4号

1千121万円増

台風15号により被災した農業用施設の復旧のため増額。(2ページ参照)

○専決承認第5号

5千61万円増

台風15号・19号により被災した施設の復旧のため増額。(2ページ参照)



専決処分

議会が議決または決定すべき事項を、地方公共団体の長が地方自治法の規定に基づいて、議会の議決・決定の前に自ら処理すること。

補正予算

○一般会計補正予算

4千313万円増

障害者自立支援給付費の増額と、台風被害による誘客・

経済対策として町観光協会への補助金を増額。(3ページ参照)

○国民健康保険特別会計

322万円増

制度改正に伴う国保システム改修委託料と、出産育児諸費を増額。

○介護保険特別会計

397万円増

利用者の増に伴う保険給付費の増額と財政調整のため基金積立金を減額。

○風力発電事業特別会計

70万円減

売電収入の減額、修繕料及び保安管理委託料の増額のため、基金積立金を減額。

○下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町幼児教育アドバイザー共同設置事業特別会計

8万円増

幼児教育アドバイザーの旅費及び、県総合庁舎光熱費分担金の増額。

○水道事業会計

129万円増

台風19号の対応経費及び人事院勧告に伴う給与費関係の増額。

条例制定

○会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例

地方公務員法等の一部改正により令和2年4月から会計年度任用職員が導入されることに伴う制定。

条例改正

○職員の給与に関する条例
人事院勧告に伴う条文の整備。

○災害弔慰金の支給等に関する条例

災害弔慰金の支給等に関する法律等の改正に伴う条文の整備。

○公営企業職員の給与の種類及び基準に関する条例

人事院勧告に伴う条文の整備。

○印鑑条例

成年被後見人関係の法律の施行に伴う条文整備。

報告

○教育委員会自己点検・評価報告書

教育委員会事務の自己点検・評価(平成30年分)の報告。
※報告は採決なし(質疑のみ)

Q 奈良地内3路線の道路整備計画は

A 事業費の関係から計画はない



道路が狭く子供たちの安全が確保されていない

Q 町の負担が少ない

A 中山間地域総合整備事業等の補助事業を活用し農道として整備するお考えは。

Q 現在、2期目で農道を整備しているが、追加は困難である。

A 対象路線を3期目

Q 町で実施するお考えは。

A 県や地元とも協議し検討していきたい。

Q 町道太田線は子供たちの安全確保のため実施すべきでは。

A 地権者や財政状況を確認しながら実施する方向で検討する。

Q 職員の健康管理は

A 心の病も含めカウンセリング中心に対応している

Q 火災等におけるサイレン(吹鳴すいめい)は

A 町民の声は承知しているがメール等情報伝達で対応していく

Q り災証明は必要か

A り災証明が必要になる場合が多い



瓦が飛ぶなどの被害が多く見られた

Q 台風15号における住宅の被害状況は。

A 9月18日時点では、96件を確認した。

Q り災証明はどの程度で申請するのか。

A 20%以上の損壊があれば申請の対象になる。

Q り災証明書を申請した人数は。

A 現在の時点で63人。

Q 台風時に同報無線が聞き取れなかったという声も多くあったが。

A 風雨の強い場合は開きづらいことがある。本年度より高性能スピーカーの設置を進めている。



楠山 議員

その他の質問



鈴木 議員

その他の質問

Q ふるさと納税のあり方はより具体的な使い道を考えている



こ 利子 議員
さ 定居

Q 災害対応は

A 住民に早期避難を呼びかける

Q 台風15・19号の避難所は。また避難者数は。
A 公民館9か所、学校施設5か所である。325名の避難者があり、そのうち町外者は3名であった。
Q 3日間の着替え、食料品の持参の呼びかけはなぜか。



災害時は早期避難を

A 常備7日間の備えを伝達しているため。
Q 賃貸住宅、マンションへの災害情報伝達は。
A 賃貸、マンション等に限定した情報発信は行っていないが、住民に対し同報無線や携帯電話などを活用した情報発信を行っている。回覧板について民間事業者に協力をお願いしている。
Q 人口減少に伴い高齢者が増えている。そこで、あじさい学級等で防災についての講演のお考えは。
A 常に情報発信をしていくので考えたい。
Q 県が普及を図るマイライフライン（個人防災計画）の取組は。
A 今回の災害の反省をふまえながら区、防災組織関係者と十分に協議し検討していく。



こ 義仁 議員
い 稲葉

Q 廃棄物処理における方向性は

A より広域での連携を念頭に入れ検討したい

Q エコクリーンセンターは15年の延命化で約31億円、その他施設
A エコクリーンセンターの延命化工事が本年度完了するが、その他の施設の改修計画は。
A し尿処理場については、延命工事を二酸化炭素排出抑制対策事業費交付金の対象にできるか調査を行っている。最終処分場は埋立地残量調査の結果、令和11年12月まで延命可能となっている。
Q エコクリーンセン



延命化工事が行われているエコクリーンセンター東河

A においても今後多額の費用が必要となる。人口が減少している現状において、将来的にはより広域での連携も視野に入れる必要があるのでは。
A 当町のみの判断でできることではないが、広域化を見据え、連携を図っていきたい。
Q 当面の費用削減、将来的な広域化の双方の観点から、周辺で既に実施されている「ゴミ袋有料化」についてどう考えるか。
A 河津町と連携し実施する方向で調整したい。
Q 群馬県に委託処分している河津町の焼却灰や破碎残渣（はさいざんさ）を当町の処分場に受け入れる考えは。
A 河津町と調整し前向きに検討したい。

Q 入湯税引上げの後の使い道は

A 観光地としての環境基盤整備が主となる



町の玄関口に立つ廃業ホテル

Q 入湯税の全国的状況は。
A 課税団体981のうち91・3%が150円、それ未満が8.1%、150円越えが0.6%である。
Q 当町の玄関口にある旧大川グランドホテルの撤去に充てる考えは。
A これまでも取り組んできたが民間の施設で入湯税の増収となる入湯税をプールして稲取駅の改修を働きかけては。
A 町が3分の1以上の負担でもいいと言っても動かなかった。
Q 入湯税は注目されるので理解を得て進めて欲しい。
A 各観光協会の意見をとりまとめ進めていく。
Q 観光地としてトイレのウォシュレット化を進めては。
A 現在ウォシュレット化は16・2%であり、今後のためにも入湯税の引上げが必要。
Q 年間7500万円の増収となる入湯税をプールして稲取駅の改修を働きかけては。
A 町が3分の1以上の負担でもいいと言っても動かなかった。
Q 入湯税は注目されるので理解を得て進めて欲しい。
A 各観光協会の意見をとりまとめ進めていく。

Q 災害ボランティアの活用を

A 住民の要望に応えられるよう活用したい



土砂撤去を行う災害ボランティア

Q 台風などの被災後、土砂の撤去や飛来ゴミの片付け運搬などを助けてくれる災害ボランティアの現状は。
A 災害対策本部設置後、被害状況により社協に災害ボランティア本部設置を要請し運用。
Q 今回の台風では設置されなかった。迅速に設置し、住民のニーズに対応して頂きたい。
A 住民の要望に応えて支援を行えるよう取り組んでいく。
Q 「LINE」を使って消防団員が地域の被災状況を迅速・的確に掌握するために有用とされているが。
A 有用と考える。町としても活用を検討する。
Q 災害ボランティア本部と各区自主防との連携は。
A 自主防は地区内の支援要望を把握し災害ボランティア本部に要請。それを受けてボランティアを派遣して支援作業を行う。



ふ 井 明 議員
い 藤 明

そのほかの質問

Q 当町での洋上風力発電の計画は
A 海底ケーブルを敷設する計画となっている



こ 京子 議員
く 栗原

そのほかの質問

Q 幼稚園に給食の提供を
A 実現に向けて進めていく

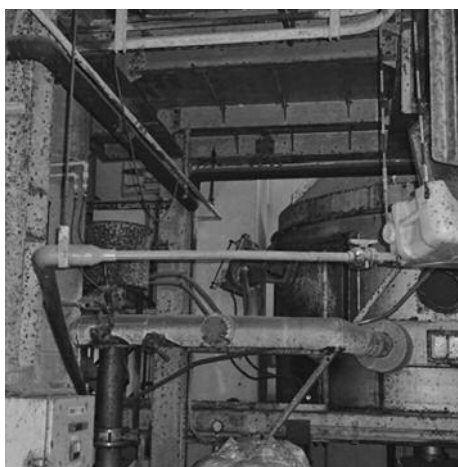


にしづか おたか 議員
西塚 孝男

Q 公共施設の維持管理は

A 公共施設が住民負担にならないようにする

Q 公共施設の老朽化が進んでいる中、今後の維持管理については。
A 人口減少の中、公共施設が住民負担にならないように町としても考え、教育環境や環境衛生関係の整備を進めていきたい。
Q 水道施設の被害は。被害は県が管理す



老朽化が進む、し尿処理施設

る河川の護岸崩壊が大半を占めており、町の復旧箇所はわずかで水道ビジョン計画に見直しはないが、町としては今回のことを考え、水道ビジョン計画の前倒しを進めたい。

そのほかの質問

Q 津波や台風の時、避難場所が安全なのか
A 災害の種類によっては安全が確保できない。今後、自主防災会と検討していきたい



やま だ なおし 議員
山田 直志

Q 伊豆縦貫道へのアクセス道路整備を

A 県や河津町と協議して、広域で整備進めたい

Q 町の道路整備の基
A 伊豆縦貫道の早期整備と大雨等で通行止が発生する国道135号線の代替道路として、大川地区から伊東市八幡野地区に接続するバイパス道路を要望している。



アクセス道路が期待される河津の山

Q 当町は縦貫道に接続する道路はない。河津町へは2本、見高地区からは3本の道路がある。津波や土砂災害などで通行できない可能性があるが。
A アクセスとして河津町田中地区へ通じる道路が必要だと考えている。
Q この道路は町と河津町双方にメリットがある。人や物資の輸送路としての整備は。
A 県や河津町と協議して、広域で整備を進めたい。

そのほかの質問

Q 高校生新卒卒の見直しを
A 全学歴で35歳までの募集に
Q 熱川風力発電の三者協議の今後は
A 双方で交流を図り信頼関係を深めていく

Q 熱川支所廃止検討の経緯は

A 人口減少と税収減少等を踏まえたうえで行政サービスの持続可能な提供を行う



廃止検討がされている熱川支所

Q 住民説明会では熱川支所継続の声が多く聞こえたが。
A 意見や要望を真摯に受け止め、今後考慮すべき課題及び方向性について、十分検討していく。
Q 2回目の地区説明会は。
A 台風被害等があり秋にはできなかった。来年度に行いたいと考えている。
Q 町長はいつ頃までに行いたいと考えているのか。
A 時期は明言できないが、早いほうがいいと考えている。住民サービスを低下させないようにし、必ずやらなければいけないと考えている。



かさ い まさあき 議員
笠井 政明

そのほかの質問

Q 高齢者避難の対応は
A 同報無線等で早めの避難を呼びかける
Q 2拠点居住者へのサポートは
A 相談や情報提供を行っている

Q 入湯税の引上げの時期は

A 令和2年10月または令和3年4月で検討中



旅行者にとって楽しみの一つである温泉入浴

Q 入湯税の引上げ率と引上げの理由は。
A 入湯税150円を100円引上げて250円とすることを検討している。今後の環境整備の財源確保をした。
Q 引き上げた入湯税の用途は。
A 予測される入湯税約7千500万円の10%は観光施設の維持費に充て、90%については観光客の満足度を高めるための環境整備を中心に使いたい。



うちやま しんいち 議員
内山 慎一

そのほかの質問

Q 細野高原のミシマサイコ
の積極的な保護を
A ボランティア団体が保護している。町は考えていない

委員会視察研修

先進地の事例から

まちづくりに生かす

総務経済常任委員会

研修日

令和元年10月8日～10月10日

●和歌山県田辺市秋津野ガルテン

【研修内容】

ガルテン（市民農園）を中心とした地域づくり

Q 市民農園の特徴は。

A この市民農園は行政主導ではなく、秋津野地域の住民が出資して設置・運営している農家レストランやアイス工房を備えた体験型グリーンツーリズム施設です。

Q そのような取組ができた理由は。

A 地域の人たちがどんな地域にしたいのかという話を話し合い積み上げてきた結果だと思っています。住む人が増えていく中でゴミ出しからみんなで話し合うことの積み上げが大きな力になっています。

●和歌山県白浜町役場

【研修内容】

バブル後も観光客が減らない観光地づくり

Q 観光地の特徴は。

文教厚生常任委員会

研修日

令和元年10月9日～10月11日

●愛知県新城市まちなみ情報センタ―

【研修内容】

若者議会

Q 若者議会の特徴は。

A 16歳から29歳までの若者から議員20名を公募し、1年間をかけて事業を検討します。市への中間発表を通じ精度を高め、予算を検討材料に含めた形で市長に答申、実際に事業化していきます。

Q どのような効果が得られたか。

A 若者が各々の「こんなことがしたい」という思いを現実に事業化することや、前年までの事業の検証を通じてまちづくりの楽しさや難しさを体験することで、市政への興味や地域への愛着を深めることができたと考えます。

●富山県舟橋村役場

【研修内容】

子育て共助のまちづくり

Q 子育て共助とは何か。
子育てをきっかけとして、子

委員会の活動レポート

総務経済常任委員会 一 所管事務調査

入湯税 免除申請の簡略化を



入湯税は入湯者1日一人につき150円を徴収

総務経済常任委員会では、議会閉会中に入湯税について調査を行いました。入湯税は、町内の旅館ホテルなど鉱泉浴場における入湯に対し、一人150円を特別徴収義務者（旅館・ホテルなどの経営者）が徴収しています。

平成30年度の特例徴収義務者は75事業所で、うち44事業者は旅館組合が納入、31事業者は税務課が直接徴収しています。

また入湯税は、使途の目的が定められた税金です。

平成30年度決算では、約1億1千146万円を徴収し、環境衛生施設費の整備に5千

146万円を、消防施設等の整備に700万円を、観光施設の整備・観光振興に5千300万円を充てています。なお、障がい者や修学旅行には課税免除制度が設けられているものの近年の申請実績はありません。

町に対する委員会の意見

①各観光協会が運営する露天風呂など日帰り温泉施設は、非課税とする根拠を明確にしたい。

②旅館・ホテルの日帰り温泉は、課税の対象となりうる。

③入湯税の課税免除申請は、利用者や施設に負担が大きく利用しにくいので、手続きの簡素化を図りたい。

④身体障がい者等については、免除の範囲を団体だけでなく介助者も含めた個人への拡大を図り、宿泊料金の制限も合わせて見直されたい。

議会改革特別委員会

開かれた議会へ

早稲田大学マニフェスト
研究所による

講演会を開催



10月25日 中村事務局長を講師に招き議会改革の講演会を開催

議会改革特別委員会では、今年度は早稲田大学マニフェスト研究所と連携し議論を深めています。10月25日には、「①なぜ議会改革が必要か、②全国ではどんな改革が取り組まれているのか」12月13日には「議員定数・報酬についての考え方」について講義を受けるとともに、当町の議会改革度の評価を行い、今年度優先して取り組む課題を絞り込みました。

本委員会では今後も、町内各団体との意見交換会を開催していく予定です。

議会では、町民のみなさんの生の声をまちづくりに生かしていきたいと考えています。

意見交換を希望されるグループ・団体は、お申し出ください。



令和元年11月2日、姉妹都市である長野県岡谷市野球チーム「愛球会」との交流試合が町営野球場で行われました。

今回は、試合に参加した「つわぶき会」会長の高橋亨さんにインタビューさせていただきました。



つわぶき会 会長
高橋 亨さん



皆さん本当に若々しい

11月2日、岡谷市の野球チーム「愛球会」（山田宜元会長）を迎え、当町の「つわぶき会」が熱戦を繰り広げました。チームを率いるのは84才の高橋亨会長です。チームの平均年齢は68歳、定年退職した人が多いが現役で働いている人も交じって皆で野球を楽しんでいるそうです。

■岡谷市との野球交流を始めたきっかけは。

昭和60年に岡谷市と姉妹都市になったのが縁で、次の年から野球

交流をはじめました。それからずっと続いて今年で34年目になります。長続きしているのは団体での活動、つまりチームプレーがいいのではと感じています。年2回、夏は岡谷市で、秋はこちら東伊豆町で、2試合ずつ行っており、今回は第127・128戦目ということになります。昨年は台風で中止でしたが今年は天候に恵まれ楽しく戦えました。

■野球の魅力とは。

みんなで仲良く親睦を深め、健康第一でやっています。好天に恵まれたグラウンドで白球を追うのも楽しいですが、終わってからの相手チームとの懇親会も楽しみにしています。



秋空のもと
白熱プレーが続く

また、岡谷市と野球を通じて仲良くなったおかげで、御柱祭の際、岡谷市民と一緒に祭りの中に入れていただき、とても貴重な体験をさせていただきました。姉妹都市交流の大切さを実感しました。

お詫びと訂正

議会だより10月号P6災害ボランティア事業の金額に誤りがありましたので、お詫びをし下記のとおり訂正します。

【誤】53万円→【正】5万

広報編集委員会

委員長	藤井廣明
副委員長	笠井政明
委員	稲葉義仁
委員	西塚孝男
委員	村木 脩
委員	山田直志

編集後記

明けましておめでとうございます。令和になって初めての新年、そして東京オリンピック・パラリンピックの記念すべき年。前回は1964年でしたから、実に56年ぶりの開催となります。

伊豆は自転車競技の会場となりますので身近に応援が出来るでしょう。これを機会に伊豆がサイクリングのメッカとなり、多くの来遊客が自転車で走る半島にしたい。これが私の初夢、皆様はどんな初夢を見られましたか？
(藤井)